

【強いアフリカ域内経済】 域内統合の推進と魅力的なビジネス環境の構築： 地域経済統合の深化

現状と課題

- 13億人(2020年時点)のアフリカの人口は、2050年には25億とになるとの人口増加が見込まれており、急激な都市化に対応が必要となっている。
- 地域統合にむけて、モノ・ヒト等の流れを確保していくために、域内の生産バリューチェーン構築を行う必要がある。技能を有する人材の育成やインフラ不足も課題となっている。

今後の取り組み方針

●全般：

限られたリソースで大きなインパクトを目指す新機軸の打ち出しと、+αを加えた既存方針の継続、RECsと国際約束を結び直接支援できるよう積極的にはたらきかけを行う。

- 地域経済統合の深化と新たな挑戦ーキーワード「複数の回廊の連結」「安全な回廊」「自由で開かれたスマートシティ開発」「貿易円滑化とテロ・感染症・IT」
- AUとの長期的な協力関係構築とEAC、UEMOA等RECsとの連携
- EPSA、世銀、IOM等との協調融資・資金協力
- 民間・多様なアクターとの連携

①統合回廊アプローチ 2.0(PIDA-PAP2)

- ソフト分野の支援も重点化(グローバルロジスティクス研究、道路アセットマネジメント等)
- 3重点回廊の継続支援(引き続き重点的にリソース配分)
- AUが推進する優先インフラ開発計画PIDA-PAP2(3重点回廊や他の回廊等の支援)
- 自動車産業振興調査、Home Grown Solutions(HGS)アクセラレータープログラムの提言活用

②自由で開かれたスマートシティ開発(質高インフラ)

- アビジャンのモデル都市化(DX、データ利活用推進、スタートアップ活用、将来的に都市OSのための支援を検討)
- M/Pとあわせ都市交通アクセス事業などをモデルインフラとして提示
- 公共交通DX推進(TOD開発イニシアティブ、MaaS等DX関連の取組推進)
- 都市のコロナ対応

③域内貿易円滑化と国境管理(AfCFTAの実施促進、OSBP推進)

- OSBP拡充(貿易円滑化に加えて国境リスク管理、公衆衛生強化も支援)
- AfCFTA支援(ASEANの経験も踏まえる)



貢献する SDGs



【強いアフリカ域内経済】 域内統合の推進と魅力的なビジネス環境の構築： 地域経済統合の深化

これまでのJICAの取り組み



東アフリカ最大の国際貿易港であるモンバサ港(ケニア)。港開発、及び港周辺の道路開発を実施。
[写真提供: 東洋建設株式会社]



ガーナ最大級のテマ立体交差点。無償資金協力「国際回廊改善プロジェクト」によって建設。



農作物を運ぶ物流用ドローン。「ルワンダ国 次世代型モビリティ(ドローン)を活用した 高付加価値農作物輸出促進のための普及・実証・ビジネス化事業」にて活用を検証。



アビジャン市(コートジボワール)の渋滞の様子。技術協力「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト」にて持続可能な都市計画を支援。



都市におけるCOVID-19の影響調査:ケニア・ウガンダ国「Building Resilience -COVID-19の都市分野でのインパクトと対応-」レポート



ザンビア・ボツワナ間OSBP施設(ザンビア側)内の様子。有償資金協力「カズングラ橋建設事業」及び技術協力「南北回廊における円滑なOSBP運営管理能力協カプロジェクト」にて支援。